

おおさか AALA

非核・非同盟・平和・友好・連帯

今月の読み物

◇2面: 34回 AALA カフェ報告 ◇3面: 『世界で最初に飢えるのは日本』ZOOM 講演を視聴して ◇4-5面: ASEAN 首脳会議開催 ◇6面: 戦争 PTSD 被害孫世代まで ◇7-8面 大阪憲法会議総会の方針を大阪 AALA 活動にどう結びつけていくのか

〒540-0004 大阪市中央区玉造 1-6-11 黒石ビル3F

2023年 10月1日 No. 608



ニジェール支援に尽力された谷垣静子さんの遺作

8月26日開催 第34回 おおさかAALAカフェ（報告はp2及び次号に詳細記事）

【会員紹介】

ひろ ゆたか
弘 豊さん（摂津市会議員）



おおさか AALA のみなさん
こんにちは。今年の夏も猛烈な暑さが続きましたが、体調を崩されたりしていませんか。

年々厳しく感じられる酷暑、各地で頻発する豪雨や台風被害、「地球が沸騰している」と国連が対策を呼び掛けていますが、この気候変動が国際的な課題として議論されるようになって30年以上が経っても未だに日本の政府は化石燃料に頼ったエネルギー政策を捨てきれずにいる。その上、最大の環境破壊と言われる「戦争」の準備とも言える軍拡に43兆円もの予算を投じるなんて絶対にはり得ません。深刻な気候危機を打開するためにも「戦争の準備なんてやっている場合じゃない！平和な世界と地球環境を守るためにできること」を真剣に探求していく姿勢がいまの政治には必要だと感じています。

さてそんな中、私の住まう摂津市でも昨年に市長が「ゼロカーボンシティ宣言」を発表しました。内容としてはこの自治体でも取り組まれていくようなもので、特段に目新しさを感じるものではないのですが、これまで求めてきた家庭用の太陽光発電や蓄電システムに補助をする制度がようやく今年から始まりました。人口8万5千の小さなまちで細やかな取り組みをやって地球環境にどれほど貢献できるのかと思ってしまうことありますが、小さなことからコツコツと問題意識を共有できる仲間を増やしていければとも思います。

2030年・2050年の日本と世界が、そして地球の姿がどのようなものになっていくのか、そんなことを考えるこの頃です。

第34回AALAカフェ

ニジェールで医療活動に
人生をかけた日本人
～JICA山形茂生さんのお話～

報告その1 西野敏江



次号で山形さんからアフリカのことを詳しく書いていただきますが、まずは、山形茂生さんと私西野とのつながりについて触れておきます。

JICA山形さんをお招きして開催
山形さんと谷垣医師夫妻の出会い

第34回目のAALAカフェは、8月26日、元JICAニジェール支所長をお招きして、アフリカの様子を聞きました。アフリカの情報はなかなか入ってこないことが多いですが、縁あって山形茂生さんに来ていただくことができ、AALA事務所には8人の参加者が集い、山形さんの話に熱心に耳を傾けてくれました。初めて聞く話ばかりで質問もたくさん出て中身の濃いカフェでした。



谷垣静子さん

をしていた関係であったのです。さて、この谷垣医師は私の大学の先輩。ワングル部所属で現役時代はもとより卒業して社会人になっても伝説的な人でした。ワングルOB会は、ニジェールで医療物資が不足している中、がんばっている谷垣氏を応援すべく物資を調達してアフリカへ送るなど協力していました。谷垣医師の活動ぶりは山形氏にお任せするとして、ここでは谷垣静子さんを紹介します。谷垣医師の夫人です。

山形さんがニジェールで支所長をしていた時、谷垣雄三医師が赴任してきました。1982年のことです。医療者派遣はJICAの担当分野なので、山形氏と谷垣医師は常に共同行動

谷垣静子さんの遺した作品

1982年、静子さんは夫のアフリカ赴任とともにニジェールに赴任し、そこで絵をたしなむ日々を送っていたようです。ところが1997年5月サハラ砂漠の西当たりのペッサワという町で病死し、その地に埋

葬されました。谷垣医師の悲しみはどんなに深かったことだろうかと思います。谷垣医師は、2017年に現地で亡くなりますが、その頃ずっとにいっしょにいたのが山形氏だったので、そして遺言を聞いたのも山形氏でした。「静子の作品を必ず日本で個展を開いてほしい」というものでした。山形氏は、日本に送る作業、受け入れの確認、個展に関するすべてのことなど、考えただけでもそっとするような作業を行ってきました。

個展は、東京、横浜、松本、京都（谷垣氏の出身地）、神戸、博多など各地で行われ見た人に感動を与えました。山形氏は、谷垣医師の遺言を守り、その任務を終えました。静子夫人の絵はワングル後輩の私が引き取りました。アフリカの雰囲気のある絵はAALAの人間が一番味わえると思ったからです。山形氏の最後の仕事は静子夫人の絵

を私の夫の実家へ送ることでした。6月、奈良の西野宅に大小合わせて100点ほどが届いたのです。山形氏はこれらの絵が無事に届いたかの点検のため早朝、新幹線で奈良入りしました。こうして山形氏と静子夫人の絵の長い旅は終わりました。

ニジェールを通しての現在のアフリカの政治情勢、地理的なことは、次号の山形氏の報告を楽しみにしてください。



『世界で最初に飢えるのは日本』

食の安全保障をどう守るか

9/7 鈴木宣弘さん(東京大学大学院教授)の講演を視聴して

「世界で最初に飢えるのは日本」との衝撃的なタイトルは勿論、どうしてそうなるのか?の疑問を持ちながら、是非ともこの講演を視聴しなければとの思いで、日本AALA主催のZOOM講演に参加しました。

講演の内容は多岐にわたる多くのコメントとその資料も膨大な数であり、この稿ではとてもご報告できませんが、最初に示していた講演内容のポイントをいくつか報告し、詳しい内容は整理しながら、機会があれば今後少しずつでもご紹介できればと思います。(小松 靖昌)

本当は10%を切る自給率

日本の食料自給率は「種」

も「肥料」も多くが輸入であり、これを考慮すると38%どころか10%あるかないかとなる。ことが起こり海外からの物流が停止すれば、世界で最も多くの餓死者が出る国となる。国内生産の増強が切実だが、国内農業は国の肝心な手当てがなく生産コスト倍増でも作物価格を上げられず、廃業が増加しかねない。

儲けだけ主義、日米オトモダチ企業

日米のオトモダチ企業が国の政治を取り込み、農家や国民を収奪しようとするのを放置すれば、物流停止で即国民の食料はなくなる。農業の崩壊で関連

産業も農協や生協も、地域の政治・行政も存続できなくなる。今こそ、協同組合、市民組織など共同体的な力が自治体の政治・行政、そして心ある企業と連携して地域で奮起し、地域のうねりを国政が受け止めて国全体のうねりにする必要がある。

地域の「種」を守り、ローカル自給圏を

地域の種を守り、生産から消費まで「運命共同体」として地域循環型の農と食を支えるローカル自給圏をめざす。1つは学校給食の地域公共調達。そのため耕作放棄地は農家と住民が一体で分担しながら耕す。2つは命縮める輸入品は国産

より高い。したがって消費者も流通・加工も今すぐ国産に。さらに消費者の自然食品嗜好への流れから、有機・自然栽培の方向性を視野に進むことが重要。

何でもお金で食料をの時代は終焉

お金を出せばどんな食料でも買える時代は終焉したとも言える。不測の事態に国民の命を守るのが「国防」なら、自国の地域農業を守

ることこそが安全保障。「防衛費5年で43兆円」の一方で、「農業消滅」を進めたら「兵糧攻め」で日本人の餓死は現実味を帯びる。トマホークを爆買いし、ココロギ、培養肉、人口卵の推進ではなく、国は「農業」にこそ数兆円の予算を早急に付けるべきだ。



第35回AALAカフェ



「韓国映画を通して ~私の映画人生」

お話 岸野 令子さん

(映画パブリシスト)

日時: 10月15日(日) 13:30~15:30

会場: 大阪 AALA 事務所

会費: 500円

(資料+コーヒーと茶菓子)

インドネシアのジョコ大統領は、ASEANを「平和と協力の場」として強化することを呼びかけました。また2日目には、今後の平和構築と経済成長をめざす指針となる「ASEAN第4協和宣言」を採択しました。これは、「ASEANは平和・安定・安全を維持する第一義的な責任を持つ」とした上で、ASEAN共同体を「インド太平洋地域とさらに幅広い地域の成長の中心地」にするものとして、対話と協力を促進することによって開かれた包摂的でルールに基づく地域秩序の構築をめざすものです。



ジョコ大統領

対話と外交が解決の唯一の道

最終日に行われた東アジアサミットでは、ここ数年、アメリカと中国・ロシアとの対立が繰り返されてきたことを念頭に、ジョコ大統領は「東アジアのすべての指導者には、新たな紛争、緊張、戦争を起こささない責任を共有している」と述べました。戦争を起こささないASEANとしての決意の表明です。

ア外相が、東南アジア非核兵器地帯条約（バンコク条約、1997年発効）の議定書に核兵器保有国が署名することで、地域を完全な非核地帯として保証することを求めるなど、核兵器のない東南アジアにするためのASEANの努力も見られました。

* * * * *

一連のASEAN関連会議は、アメリカ・中国・ロシアの大統領が欠席したことで、大国間の対立に影響されているとのメディアの論調もありました。しかし対話と外交を重視して実践しているASEANの自主的なあり方こそが、戦争を起こさないための先駆的な地域協力機構のとりくみとして模範となるのではないのでしょうか。（粕谷武志）



ASEAN インドネシア マレーシア フィリピン シンガポール タイ ベトナム ブルネイ ミャンマー カンボジア		ARF ハバニューギニア 中国 インド 日本 パキスタン 韓国 ロシア ニュージーランド モンゴル オーストラリア 東ティモール バングラデシュ	TAC スリランカ 北朝鮮 米連邦 欧州連合(EU) カナダ フランス トルコ ブラジル ノルウェー 英国
--	--	---	--

ASEAN=東南アジア諸国連合
 ARF = ASEAN地域フォーラム
 TAC = 東南アジア友好協力条約
 EAS = ASEAN+日、中、韓、米、ロ、印、豪、ニュージーランド（18ヶ国）
 ☆ = 北朝鮮核問題6カ国協議参加国
 図は「知りたかったASEAN」（日本AALA発行）より

ASEANの重層的な平和の枠組み

戦争するな！どの国も
東アジアを不戦、平和、協力、繁栄の共同体に

署名を手元にお持ちの皆様へ
改めてお願いします！

「第9次国際署名」には、再度のお願いに添えていただいた会員及び読者の皆様に対して先ずお礼を申し上げます。

武力を背景とする軍事大国中心の世界の流れに抗し、国連加盟国では既に多数派でもある「非核・非同盟」の多くのAALA諸国と連帯しながら、互恵・協力・協調の平和的話し合いこそが真の世界平和に繋がります。「国際署名」はそれらを励ます貴重な取り組みだと考えています。

ASEAN議長国・インドネシアへの提出まであと1ヶ月半となりました。未だお手元に署名用紙をお持ちの会員・読者の皆様、さらに力をお貸し下さい。お一人お一人がもう1〜5筆の署名を拡げていただければ、昨年以上の大きな前進に繋がります。改めてお願い致します。

「戦争」のための軍事同盟の強化とは真逆の、ASEANがめざす「平和の枠組み」を広げる努力は、9月のASEAN首脳会議でも、米国をはじめとする軍事大国も決して無視できない現実的な一方の世界の流れであることを示しています。紛争や戦争を起こさないこれからの動きこそが、世界の主流となる未来に向け、皆様の平和への思いを引き続き「国際署名」に託してください。

大阪AALA理事長

姫野 浄

寄稿

戦争PTSD被害孫世代まで

おokayama人権研究センター事務局長(大阪AALA会員)

菅木智子さん



日本兵のPTSD

戦争を経験した人が高齢になり、戦争の悲惨さを直に語れる人が少なくなってきた。戦争の経験を風化させないで、若い人たちに伝える努力がいろいろされている。難しいけれど、それが平和を維持する貴重な礎となることは間違いない。

一方、戦争を経験した超高齢の人たちが亡くなった今の時期にこそ語られ始めたこともある。それはともに暮らした家族の、子や孫の傷痕とも呼べる経験だ。

戦争の経験がPTSD(心的

外傷後ストレス障害)を負わせることがだんだんと明らかになってきている。

子や孫にまで連鎖する戦争の影響

アジア・太平洋戦争でPTSDを負った旧日本兵の家族らが5月9日にシンポジウムを開いている。題は「脱・戦争」という。主催は「PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会」。副題は「あの戦争の後始末もできないまま、また戦争をやるのですか」である。

この「PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会」が『PTSDの日本兵の家族の思いと願い』という本を「あけび書房」から出している。アジア・太平洋戦争に出征し、精神疾患を患った日本兵と暮らした家族たちの証言集である。

殺し、殺される戦場でPTSDを負った復員兵は推定300万人。家庭内暴力、虐待、アルコール依存、社会関係の悪化、自殺願望…。

「皇軍の恥」として隠され、「家族の恥」として秘されてきた史実に光をあてている。それは子や孫にまで連鎖する戦争の影響を浮き彫りにしている。

それらは戦争をしたい人達が隠したい事実であり、いままで隠され続けてきた。国からの補償はもとよりのない。

少年兵であった父

満蒙開拓義勇少年兵であった私の父も人間の内面というものが破壊されていた人だったように思う。94歳の高齢まで生きたけれども、後半の40年は社会的なつながりを拒む社会的引きこもりの暮しであった。

自分の人権が実現されることのない子ども時代を送った父は、自分の妻や子どもにも人権があることなど理解できなかったのだろう。子どものころ、憲法は私にははるかに遠かった。父の印象を薄めるため私は寝ないで本を読む習慣がついた。本の世界に逃げ込む子どもでもあった。64歳の現在でも、父の大きな怒鳴り声のよみがえりを、その度に丁寧に打ち消すのだ。「大丈夫、父はもういない。そして私はもう遠くまで来た」と。いまでも分からないことがとても多いと思う。

戦争の真の姿を明らかに

そして現在のウクライナ戦争に行かされたロシアとウクライナ双方の兵たちは新たなPTSDを発症している。それは今後世界中に甚大な影響を与えるはずだ。

人間を壊し、家族やその周囲の者を奈落に突き落とす戦争の真の姿を明らかにし、平和の選択を過たずとれる社会を作らねばならない。未来のため。

第57回大阪憲法会議・2023年度共同センター総会の方針を 大阪AALA活動にどう結びつけていくのか、を考える!!

高木 裕司 (大阪AALA 常任理事)



7月29日に開催された今年度大阪憲法会議・共同センターの総会に幹事団体として参加しました。

昨年1年間の取り組み、草の根の市民運動を広げ、憲法をいかす政治の実現を、市民と野党の共同で改憲発議、カジノIRを許さず、いのちとくらしを守る憲法闘争をたたかいぬこうのもと、さまざまな運動を行っている各団体や各地域共同センターでの運動展開が報告がされました。

とりわけ、三つの基本方向と三つの運動展開の視点



< 7/29 大阪憲法会議・共同センター総会 >

に沿った運動プラン①市民の共同を各地域共同センターでひろげていく②市民宣伝行動の展開を「9の日宣伝」「19日行動」中心にすすめていく③各地域の団体の運動集約をすすめる、周知していく④こまめな学習運動を広げていく等の運動を推進してきた具体内容の報告がされました。地域の運動は大阪憲法しんぶん速報版で1年間で25回発行されました。

法運動の課題と焦点について、具体的な方針が提案され、今後1年のとりくみ方向を決定しました。スローガンは、「市民と野党の共同で大軍拡、大増税を許さず岸田政権を退陣に！改憲発議を許さず、いのちとくらしを守る憲法闘争をたたかいてぬこう！」運動課題を展開する運動プランでは「憲法改悪を許さない全国署名」「大軍拡、大増税に反対する請願署名」を広く深く展開する。

今年1月28日の第74回団体地域代表者会議では

◇

市民宣伝行動の展開

「安保関連3文書」閣議決定撤回！ 戦争する国づくり、大軍拡、大増税、改憲発議を許さないたたかいを提起しました。学習運動の重要性も強調され、昨年1月27日に開催した「秋の憲法大学習会」（九条の憲法大学習会）（小森陽一さん）今年5月27日の「春の憲法大学習会」（日本平和委員会事務局長千坂純さん）が開催されました。学びながら行動する重要性が再確認されました。

団体の組織内での「全国署名」推進に、団体目標の明確化と運動集約を追求する。その際に、10筆、50筆、100筆チャレンジなどの挑戦を広げる。これ

2023年度をめぐる憲

ら憲法会議、共同センターの方針を大阪AALAの署名活動の実践に活用すれば、「2023年、戦争するな！どの国も、東アジアを不戦、平和、協力、繁栄の共同体に、第9次国際署名」と「全国署名」の共同した取組みで、署名活動におけるAALA会員の協力が、共同の運動発展につながるかと確信します。

次に、こまめな学習運動を広げていくとの提起では、大阪AALAは、第61回定期総会の活動計画で「学習と理論活動を重視し

(8ページへ)



「第57回大阪憲法会議・2023年度共同センター」総会の方針を大阪AALA活動にどう結びつけていくのか、を考える」
(7ページから)

ながら国際的重要課題に取組む」に基づき、「AALAカフェ」や「英語で世界を読む会」の対話型学習会の定期開催を継続してすすめています。また当面する課題では、第32回大阪AALAカフェ、7月15日には「ウクライナ戦争、無法なロシアの侵略をやめさせ、平和を取り戻す道を考えよう」で猪腰幸治氏を講師に開催してきました。AALAの国際的理論活動をいかした国際的課題や人権問題をテーマにした学習会や講演会も他団体と協力、共同も含め取組みを検討しています。海外ツアーや楽しい文化活動の企画もAALAらしく異文化交流のできる企画が発表されています。ぜひ多くの方の参加をお待ちしています。

次に、大阪憲法会議が、おおさか総がかり行動実行委員会主催で担当した「若者憲法宣伝」は、憲法は希望、若者も希望！であることを示しました。大阪AALAの理事団体に民青大阪府委員会が名をつらね、青年会員もおられます。若者憲法集会には全国から千数百名が参加され、若者の諸要求を持ち寄り、国会に対する統一課題での要請行動や学習会及びデモ行進等を行ったことが報告されました。私も民青同盟中央委員会が発行の「科学的社会主義セミナー、マルクスと友達になろう、社会を変革する学び」、社会科学研究所長不破哲三さんの講演を再度読み直す中で、①戦前と戦後、日本社会のどこが変わったか、②マルクスの理論は世界の常識になりつつある、社会をどう見るか(史的唯物論)マルクスの三つの提唱等の学習の大切さを痛感しました。大阪AALAの

組織拡大と多くの若い世代の会員拡大は、後回しにできない喫緊の課題です。第一は、要求で若い世代にはたらきかけむすびつきをつくる手助けで大阪AALAとしての役割を発揮する等の活動が求められています。

第61回大阪AALA総会で、活動の源泉は組織力であり、その組織力は健全な財政に支えられています。組織を支える会員の一人一人のつながりをさらに強め、活動力を高めることが、魅力ある取り組みにつながり、さらに財政的課題の克服にもつながると述べました。具体的課題の実践を通じて必ず運動発展を図るため共に取り組んでいきましょう！

大阪AALAニュース
原稿募集

ツアー報告
政治社会・世界の動き
俳句・川柳・短歌
字数：2000字程度
締切：毎月15日着
封書・メール・faxで

文化欄

川柳

日米韓軍事同盟だけが伸び地球上大国関与戦増え

新聞の軍事ニュースが大威張り

四條畷市 西川ひろし

猛暑にも耐えてたたずむ彬の碑

万博カジノアキレス腱になる維新

タンクの水棄てぬ約束反故にした

大阪市旭区 近藤正

第3回常任理事会報告(9/12)
①第9次国際署名

諸団体への訪問依頼と10月号紙面上で訴えを。11月半ばまでに昨年到達の2000筆を超えることを目指す。

②地域支部づくりをめざす

活動活性化と世代継承できる組織へ。地域の「世話人」が決まるところから地域支部を組織し会員増やしにも繋げよう。

③第4回常任理事会開催のお知らせ

10月10日(火)18時~AALA事務所

大阪AALAへのお誘い

会費 月800円(年9,600円) (25才以下は年3,000円) ※入会金 500円
*会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金をお願いします。
*会費の中には機関紙代も含まれています。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送いたします



発行

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)

Osaka Asia Africa Latin America Solidarity Committee

〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F

TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361

E-mail: osakaaala@nifty.com HP: http://osakaaala.la.coocan.jp/

機関紙・宣伝委員会

